

夏の甲子園大会が新型コロナウイルスの感染拡大の影響で中止になり、全国で代替の大会が開かれることとなった。北海道は、道高野連が独自に北海道高校野球大会を北と南に分けて開催。北北海道大会（以下、北大会）は、8月5日から11日までの日程で、旭川スタルヒン球場で行われた。この大会に釧根支部代表として釧路湖陵高校と武修館高校が出場。武修館高校の5番・ファーストを白糠町の西村唯人選手（3年）が務めた。

「これまで甲子園を目標に野球を

やってきたので、甲子園が中止と聞いたときは、『もういや』と気持ちが切れてしまいました」

その後、打ちひしがれる球児たちに朗報が舞い込む。北海道で独自に大会が開催されることになったのだ。

「甲子園が中止となったのは残念でしたが、仲間とまた野球ができるとあって、本当にうれしかったです。自粛で仲間と一緒に野球ができなかった期間が『野球ができる』という喜びを一層強くさせたような気がします」

北大会が決まったときに、武修

館の小林正人監督からこう言われた。「野球部には全道大会があるけれど、同じ高校の陸上部や剣道部には大会がない。そういうことを考えたら、その人たちの分も頑張らなければならないし、大会があることにも感謝しなければならない、そういう自覚を持って行動しなさい」と。

西村選手は改めて試合ができることや、野球ができる環境に感謝した。

高校最後となる北大会は準決勝でクラーク記念国際に敗れたが、西村選手は北大会の3試合で10打数5安打、打率5割という活躍をした。

「最後の大会は、これまで支えてくれた母親や応援してくれた皆さんにプレーで恩返しをしたいと思います。釧根予選や北大会の初戦では、結果を出せませんでした。準々決勝の帯広三条戦では、4打数3安打と、自分の力を出し切れたのでよかったです。最後のクラーク戦では、力の差を見せつけられましたが、全力でやり切ったという思いがあります。高校野球に悔いはありません」

西村選手は振り返る。

「これまで野球をやってきて本当に良かったと思っています。高校野球を通して、人として成長させてもらいましたし、大切なことを教えてもらいました。そして何よりもいい仲間巡りに巡り会うことができました」

高校卒業後はどうするのだろうか。「大学に行って野球を続けようと思っています。これからも野球にはずっと携わっていきたいです」

今年、目標がなくなるというつらい思いを経験した学生は多い。この経験を糧にして、明るい未来を花咲かせることを願ってやまない。

西村唯人

にしむら ゆいと

2002年9月16日生まれ。白糠町出身。母と2人暮らし。趣味は筋トレ、祖父とのパークゴルフ。武修館高校野球部の5番ファースト。左投げ左打ち。183cm、88kg



「高校野球でいい仲間巡りに巡り会うことができました」



3年最後の夏、母の美鈴さんに成長した姿を見せることができた。